

日本木材学会生物劣化研究会 2016年秋季研究会（講演会）の開催報告
生物劣化研究会代表幹事（道総研林産試） 宮内 輝久

近年、木造住宅の長寿命化、公共建築物や土木構造物の木造化が進められていますが、適切な維持管理による長期間の安全性を確保する技術が必要です。生物劣化研究会では、生物劣化研究会 2016 年秋季研究会として「木材・木質材料の生物劣化の非（微）破壊診断技術」をテーマとした 4 名の講師による講演会を、平成 28 年 11 月 24 日、東京大学弥生講堂セイホクアネックスにおいて開催しました。当日は雪の影響のため交通網が乱れ、事前に参加申し込みを頂いた方々の到着が遅れるという影響がありましたが、28 名の皆様に参加いただきました。講演後の質疑応答も活発に行われた他、診断の実演を頂くなど盛況な講演会となりました。以下、講演の概要を記載いたします。

・木材の生物劣化の非破壊診断技術（概論と事例）

国立研究開発法人 森林総合研究所 加藤 英雄 氏

非破壊診断に関する日本工業規格について紹介いただくとともに、木材の劣化診断について既存の方法の概要と事例、これらの問題点や課題について講演いただきました。

・木ねじプローブの引き抜き抵抗を用いた木質部材の健全性診断

国立研究開発法人 建築研究所 山口 修由 氏

木造建築物における部材の健全性を定量的に評価する技術の必要性、山口氏が開発した木ねじプローブの引き抜き抵抗を用いた診断装置の原理等について講演いただき、講演後には診断を実演いただきました。

・木材・竹材加害昆虫の摂食活動の非破壊モニタリング

京都大学大学院農学研究科 築瀬 佳之 氏

シロアリや甲虫類の木材内での活動やの食害をアコースティック・エミッション(AE)、半導体ガスセンサ、X線 CT 装置などを用いて探知・検出する方法について講演いただきました。また、平成 28 年 4 月に起きた熊本地震における調査事例についても紹介いただきました。

・木材腐朽菌由来の揮発性有意化合物による腐朽診断に向けた研究

地方独立行政法人 東京都立産業技術センター 小沼 ルミ 氏

木材腐朽菌が木材を分解・代謝する際に生じる揮発性有機化合物である MVOC (Microbial Volatile Organic Compounds) に関する研究、その生物劣化診断への応用の可能性について講演いただきました。

お忙しいところ貴重なご講演をいただきました講師の皆様、悪天候のなかご参加いただきました皆様に感謝いたします。本講演の詳細につきましては、ご協賛いただきました（公社）日本木材保存協会が発行する「木材保存」に掲載される予定です。ご一読いただけますよろしく申し上げます。